

#### 3-1. 推進効果検証とその手法の考え方(案)

##### 【効果検証の目的】

本年度調査では、地域で行われている里地里山の保全活用にかかる施策・取組について、各主体が自ら取組の評価を行い活動を進めていけるよう、評価の指標や効果検証の手法を検討する。

したがって、ここでの効果検証の目的は以下のとおり。

- (1) 地方公共団体による施策・事業の自己評価
- (2) 個々の活動主体による活動の自己評価

##### 【施策や取組と効果の関係の捉え方及び評価指標の分類】（「H22持続的な自然資源管理モデル事例検討調査」結果による）

- ・施策・取組を「活力・原動力の向上」と「生物多様性ほか環境側面の改善」に大別
- ・それによってもたらされる効果を次ページのように整理
- ・これにしたいが、効果を評価する指標を以下のように3分類(大項目) ※関連する個別指標は表3-1参照

- ①自然資源と人間との関係性の評価指標(人間から自然への働きかけの量)
- ②自然資源の状態の評価指標(結果としての環境側面の改善度合いを示す量)
- ③活動主体にとっての恩恵やメリットの評価指標

##### 【時間的スケールと手順の想定】

- ・基準年度を設定
- ・継続的に指標データを収集→推移等を分析→効果検証を行うことが考えられる

【施策や取組と効果の関係の捉え方とそれに基づく指標の設定】

※関連する個別指標は表3-1参照

「平成22年度持続的な自然資源管理モデル事例検討調査」結果を基に構成

施策・取組	施策・取組の効果	評価のための指標（大項目） *【 】は空間的スケールを示す	指標の種別（中項目）
活力・原動力の向上	○活力・原動力の向上  ↓ ○自然資源の利用・管理の活発化  ↓	⇒ ①自然資源と人間との関係性の評価指標 (人間から自然への働きかけの量)  [地域レベル] ↓ (積上げ) [全国レベル]	ア. 「活力・原動力」指標 ○施策・取組によってもたらされた原動力（人材、資金、情報、物資等）の量 ○各種施策による総合的な社会経済効果 *国民への認知・普及の促進効果を示す指標 *里地里山地域への社会経済的効果を示す指標 ----- イ. 「管理の状態」指標 ○施策等を受けて各地域で実行された利用・管理行為の量 *利用・利用管理行為を実施している団体数 *各地域における利用・管理行為の量 *都道府県・市町村施策による取組の量
生物多様性ほか環境側面の改善	○地域レベルの生物多様性や他の環境側面の改善  ↓	⇒ ②自然資源の状態の評価指標 (結果としての環境側面の改善度合いを示す量) [地域レベル] ↓ [全国レベル]	ア. 里地里山の状況を巨視的に示す指標 (土地利用・植生等) ----- イ. 健全な里地里山に生息生育する動植物種 ----- ウ. 劣化を示す外来種や農林業被害をもたらす野生鳥獣の生息生育状況
	○活動主体にとっての恩恵やメリットの向上	⇒ ③活動主体にとっての恩恵やメリットの評価指標	○物理的恩恵やメリットに関する評価指標 (温室効果ガス排出削減量、資源利用による収入・利益など) ----- ○精神的な恩恵やメリットに関する評価指標 (精神的充足度など)



## 3-2 検討内容と進め方(案)

### ●検討方針

・表3-1にあげた指標項目の例を踏まえ、推進効果検証に向けた指標と評価・効果検証手法の検討について、以下の方針で検討を行う。

◇効果検証の目的に応じた、使いやすい指標を絞り込む

◇活動の目的に対応した効果の検証手法を検討

※活動目的は4分類(農林業、生物多様性、景観・文化、環境教育)を基本とする

◇里地里山環境の状態の評価のための指標の選択、それらを用いた評価手法を検討

※指標項目(データ)の考え方

○事例での検討(ケーススタディを実施)

○普遍性、収集可能性から見て適当なデータがない場合の考え方を検討

・代替データの検討

・簡単な調査を実施し、データを作る

(必要に応じてスタディ地域での実施を検討)

・団体の活動にデータ収集を加える

など

具体的作業内容

### 施策・取組の目的に応じた効果検証の手法と指標の検討

- ・活動(施策・取組)目的に対応した評価項目及び指標候補の設定
- ・関連事例の収集整理
- ・活動団体へのアンケート調査実施(→3-3参照)
- ・事例での検討(ケーススタディ)
- ・データ補完が必要な事項等の整理

- ①自然資源と人間との関係性の評価
- ③活動主体にとっての恩恵やメリットの評価

### 里地里山環境の評価手法と指標の検討

- ・評価手法の類似事例、研究事例の収集整理(→表3-2参照)
- ・専門家ヒアリング
- ・評価のフレーム再整理(空間的スケール、時間的スケールの扱いなど)
- ・評価指標の選択と手法の検討
  - 野生動植物の生育生息に関する指標
  - 土地利用、土地被覆、植生等に関する指標
- ・活動団体へのアンケート調査(→3-3参照)、地方公共団体への聞き取り調査実施
- ・事例での検討(ケーススタディ)
- ・簡略化した検証手法の検討

- ②自然資源の状態の評価

推進効果検証手法の検討・とりまとめ



### 3-3. アンケート調査の実施について(案)

平成22年度調査で抽出した評価指標群を活用し、活動団体による保全活動の推進効果の検証(自己評価)を試行するとともに、指標の使い勝手について評価することを目的として、全国の活動団体を対象に、アンケート調査を実施する。

#### 【調査結果の分析の目的】

- ア. 活動目的に対応した推進効果の評価(活動団体の主観的効果感と客観的効果測定)  
(活動の目的としては前記4分類を想定)
- イ. 客観的測定に使える指標となる項目(データ)の評価・拾い出し、データ収集の難易度の見きわめ

#### 【調査対象】

・全国の里地里山保全活用活動団体(地方公共団体、NPO、企業、学校等を含む)

・約500団体

「里なび」HP:国内の保全活用事例(419件)、活動団体一覧(44件)、H21・22年度研修会内容よりとりまとめ(50件)

→ただし、国内事例と活動団体一覧・研修会内容の取組(地域)は、重複しているものがあり、整理が必要

※参考:里なび 国内保全活用事例にみる  
活動地域・活動主体の種別(全419件)

区分	項目	件数
地域	都市周辺	210
	奥山周辺	30
	大都市近郊	31
	中山間地	147
	記入なし	1
主な活動主体	行政	42
	地元集落等	99
	NPO・企業等	192
	連携組織	33
	その他	12
	記入なし	41

- #### 【調査方法】
- ・郵送によりアンケート票を配布・回収
  - ・調査時期:平成23年9月～10月を予定

## 【アンケート調査票の設計の考え方】

**○活動の概要**

- ・活動内容
- ・組織
- ・活動年数など

**○資源、環境の状況**

- ・活動場所
- ・土地利用状況など

**○活動目的**

- ・活動目的(農林業、生物多様性、景観・文化、環境教育)
- ・主な活動目的

**○目的達成度の評価**

### ①自然資源と人間との関係性の評価 (活動の活力・原動力に対する評価)

#### 【活動状況の変化】

- ・会員数、活動回数の拡大
- ・イベント・プログラムの開催回数・参加者数とその増減、参加・協力する主体の多様性の変化
- ・保全活用対象エリアの面積の増減 など

#### 【集落の社会経済状況の変化】

- ・農林業従業者数の増減
- ・住民意識の変化
- ・空き家戸数、耕作放棄地面積の増減 など

### ②自然資源の状態・環境に対する評価

- ・生態系タイプに応じた特定の指標種の生息状況
- ・かつてと比較しての見かける頻度の増減

### ③活動主体にとっての恩恵・メリットの評価

- ・生産物販売、グリーンツーリズム等サービス提供による収益
- ・温室効果ガス排出削減量 など
- ・精神的充足(満足度)

＜左記項目で聞き取るべき内容＞

#### (把握状況)

- ★データ把握の状況
- ★把握しようとした時の難易

#### (指標データ)

- ★数量(人数・回数・種数・面積・金額等)
- または有無
- ★変化の状況(増減等)

#### (その評価)

- ★目的達成度との関係
- ★項目間の重みづけ
- =自分たちにとってどの程度意味があるか

アンケートでは、  
国による施策の評価ではなく、  
活動団体による取組の自己評価  
の手法検討が主目的

### ○効果検証についての意向

- ・自己評価の意味や必要性について
- ・とくに重視する評価指標項目、データ
- ・とっていないが、ほしいデータ